

# 物流分野における標準化の 対象について

= 物流用語の事例 =

2021年6月3日

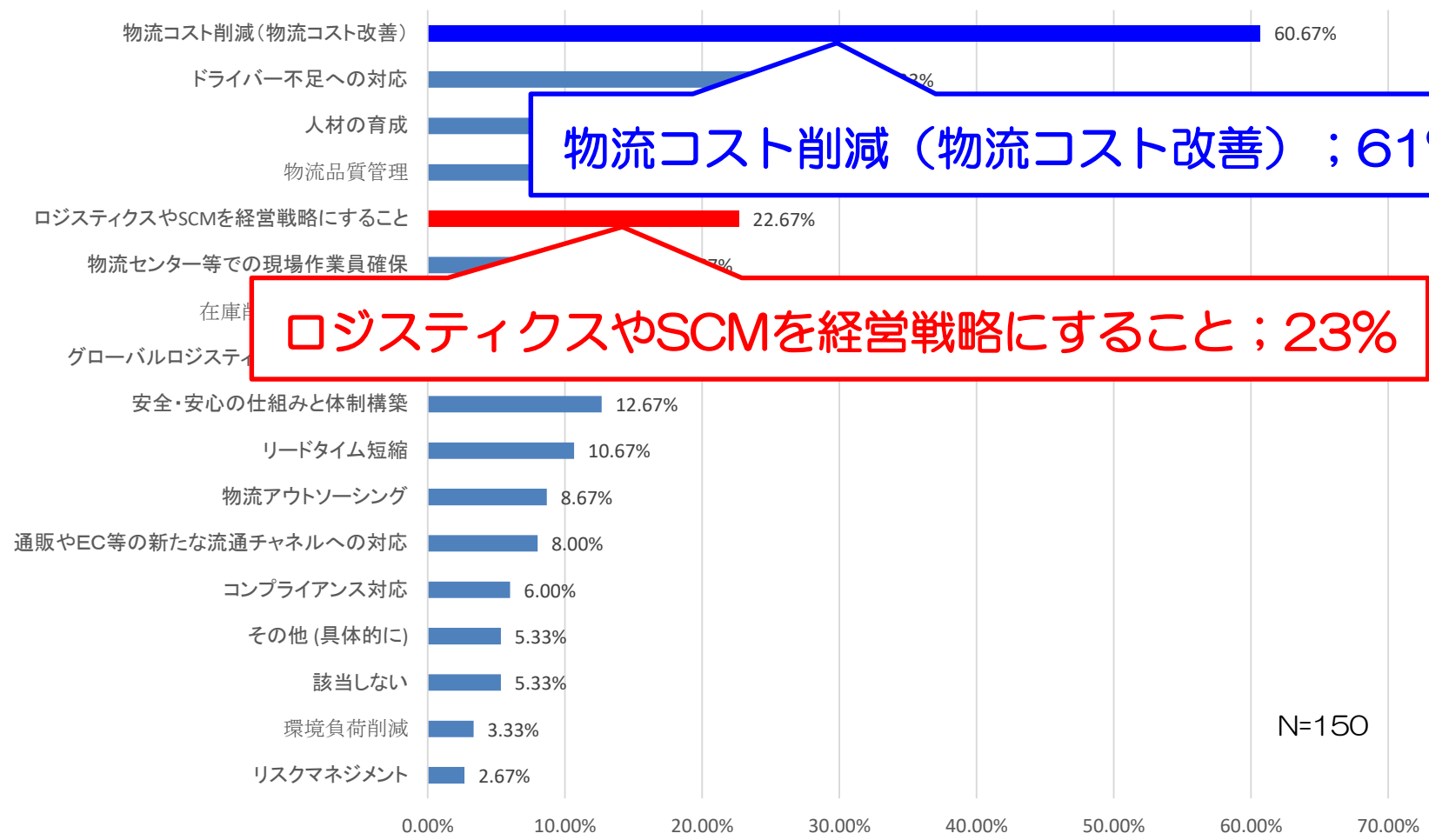
公益社団法人 日本ロジスティクスシステム協会

Japan Institute of Logistics Systems

北條 英

# ◆ロジスティクスやSCMを推進するうえでの自社の課題(3つまで回答)

- **2019年度**のJILS会員企業アンケート調査結果では、ロジスティクスやSCMを推進するうえでの課題は、引き続き「**物流コスト削減**」が首位。回答者の**61%**の回答が集まった。
- 以降、「**ドライバー不足への対応**」31%、「**人材育成**」31%、「**物流品質管理**」29%と続く。
- 一方「**ロジスティクスやSCMを経営戦略にすること**」については**23%**に留まった。



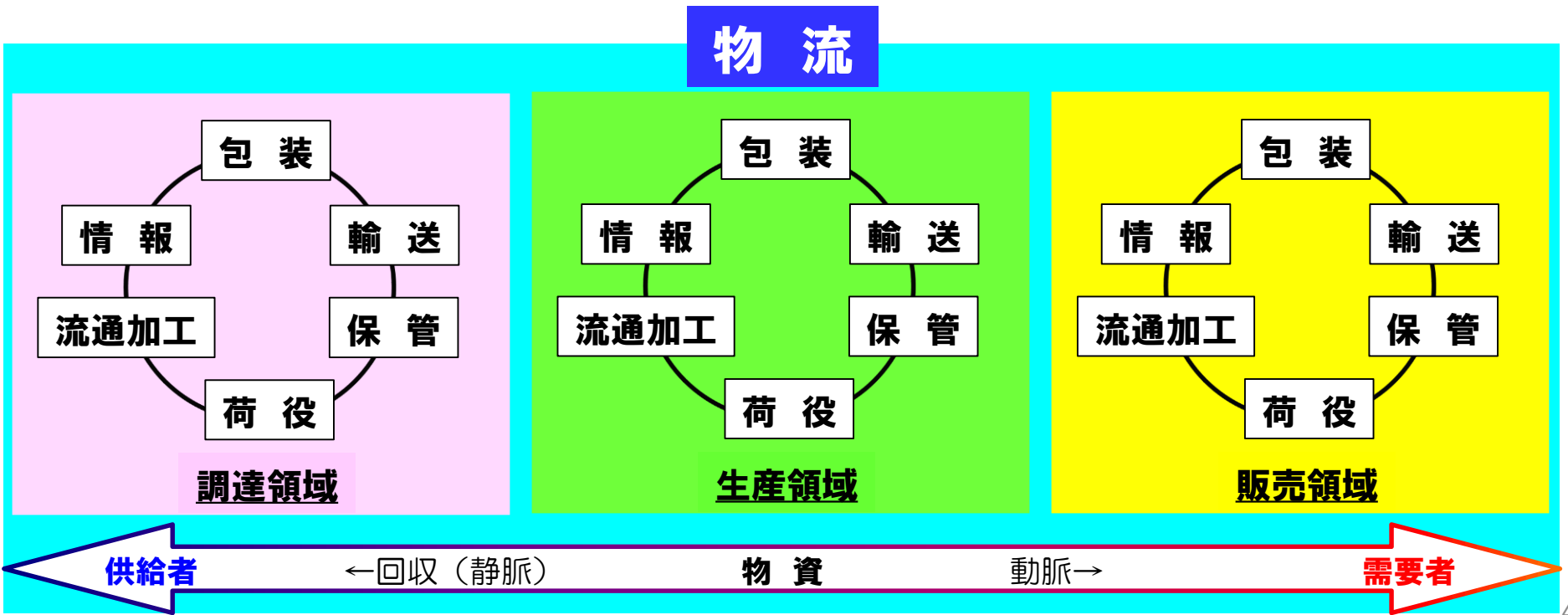
出典:2019年度 JILS会員アンケート調査 2019年12月

## ◆ 日本でロジスティクスやSCMが普及しない理由(四つの仮説)

- ① **経営層**がロジスティクス/サプライチェーンマネジメントの重要性を理解していない。
- ② **部門の壁**が存在し、**部分最適**になっている（各部門のKPI/部門間連携がない）。
- ③ ロジスティクス/サプライチェーンマネジメントに関する**専門知識**を有する者、**実践**できる者が少ない。また、これらを**育成する環境**が整っていない。
- ④ **ロジスティクスの用語の定義**が**宜しくない**？

# ◆物流の定義(JIS Z 0111:2006 1001)

- 物資を供給者から需要者へ、時間的、空間的に移動する過程の活動。
- 一般的には、包装、輸送、保管、荷役、流通加工及びそれらに関連する情報の諸機能を総合的に管理する活動。
- 調達物流、生産物流、販売物流、回収物流（静脈物流）、消費者物流など、対象領域を特定して呼ぶこともある。
- 対応英語（参考） physical distribution



# ◆ロジスティクスの定義(JIS Z 0111:2006 1002)

・「物流の諸機能を高度化し」(手段①)、「調達、生産、販売、回収などの分野を統合して」(手段②)、「需要と供給の適正化をはかる」(目標①)とともに「顧客満足を向上」(目標②)させ、あわせて「環境保全及び安全対策をはじめ社会的課題への対応」(目標③)をめざす戦略的な経営管理。

・対応英語(参考) logistics

\*) 「」、( ) 並びに下線は引用者

**“活動”を高度化したり統合すると  
“戦略”(的な経営管理)になるだろうか？  
否。**

# ◆『ロジスティクスコンセプト2030』の七つの提言

**提言1** ロジスティクスを再定義しよう

**提言2** サプライチェーンを再構築しよう

**提言3** 標準化を猛烈に進めよう

**提言4** 適切な投資をしよう

**提言5** データ共有型プラットフォームを育てよう

**提言6** ユートピアへの準備をしよう

**提言7** 提言1から6を実行できる高度人材を育成しよう

# 提言1 ロジスティクスを再定義しよう

ロジスティクスで重要な視座は“俯瞰する”こと。物流を高度化してロジスティクスにするというボトムアップ思考では自ずから限界があります。

これまでの思考法を180度転回して、俯瞰的/メタ的思考でトップダウンからロジスティクスを戦略として再定義する必要があります。

**JIS物流用語のロジスティクスの定義の見直しは、ロジスティクス普及のための手段のひとつ**

用語の定義や標準化を行うことは、次の観点から、知的労働の生産性を高められる。

①情報の交換速度の向上

②情報の交換精度の向上

➡ **物理学や工学などの短期間における著しい進化はこの証左**